

2017年度岐阜アソシア事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

当法人が設置する「視覚障害者生活情報センターぎふ」が所期の目的を達成できるように、資金を確保して資金援助を行うとともに、岐阜県及び岐阜市の委託事業等を実施することにより、視覚障害者福祉の向上発展のために努めた。

1. 「視覚障害者生活情報センターぎふ」の経営

「視覚障害者生活情報センターぎふ」が、地域における視覚障害者福祉の総合センターとしての機能を発揮するように努め、事業をとおして「視覚障害者とともに生きる」社会作りを目指した。

2. 「障害者総合支援法」による同行援護、移動支援事業の経営

岐阜アソシア・視覚障害者居宅介護事業所を設置して視覚障害者・児を対象とした同行援護、移動支援事業を引き続き行った。ガイドヘルパー養成・スキルアップ講座、代読・代筆講習会を実施し、ガイドヘルパーの育成に努めた（延べ16回 受講者672名）。また、岐阜はもんの会の協力により、外出サポート事業を実施した（24件 延べ99名）。

3. 運営資金確保のための活動

「視覚障害者生活情報センターぎふ」を支援する募金活動を引き続き行ったほか、全国のキリスト教会及び教会が経営する学校・幼稚園・信徒等に対して協力依頼を行った。さらに、岐阜県内すべての小・中・高等学校及び幼稚園に「書き損じ葉書」の寄付を依頼するなどして、「視覚障害者生活情報センターぎふ」の運営資金の確保に努めた。

- (1) 「感謝のしおり第29号」を作成し、協力者1,700余名に配布して引き続き協力を依頼した。
- (2) 視覚障害児・者・親の会（通称「ひまわりの会」）の解散に伴い、その会の資金と会員を引き継ぐことにより、協力者組織の充実に努めた。
- (3) 全国のキリスト教会・キリスト教系の学校・幼稚園並びに信徒等に対し事業への協力依頼文書を発送して資金確保に努めた。
- (4) 募金箱を近郊の書店、医療機関、ホテル及び岐阜県眼鏡商業協同組合（県下の同組合加盟眼鏡店80店の店頭）に設置）の協力により、一般市民の協力を依頼した。
- (5) 岐阜はもんの会の全面的な協力により、運営資金獲得のためのバザーを実施し、金2,346,770円の収益を上げ、これを運営資金とした。なお、視覚障害者への配慮として、点字の値札をつけるなどして、多く

の視覚障害者に買い物を楽しんでいただいた。5月27日（土）、11月3日（祝・金）の2日の開催で約450名の入場者があった。

- (6) 岐阜県内のすべての小学校・中学校・高等学校及び幼稚園に対して「書き損じ葉書」の寄付を依頼した。計75校の学校、幼稚園からハガキ6,688枚、切手1,105枚、テレカ63枚の寄付があり、100,019円の収益を上げることができた。

4. 岐阜県・岐阜市からの受託事業

- (1) 岐阜県の「岐阜県からのお知らせ」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(デイジー版、テープ版、テキストメール版)、岐阜市の「広報ぎふ」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(「あいメール」(デイジー版、テープ版))、YouTube版の製作を引き続き受託製作して、視覚障害者への広報活動に協力した。
- (2) 県内公的機関の閲覧用冊子として、岐阜県議会の「岐阜県議会だより」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(デイジー版、テープ版)を受託製作して、視覚障害者への議会情報の提供に協力した。
- (3) 岐阜県から委託を受けて視覚障害者福祉事業(点訳奉仕員養成、音訳奉仕員養成、歩行訓練士派遣事業、中途失明者緊急生活訓練事業、点字版・録音版「視覚障害者福祉の手引」作成事業等)を引き続き行い、視覚障害者福祉の向上のために協力した。

5. 関係機関、団体との連携

- (1) 岐阜県身体障害者福祉協会及び岐阜県視覚障害者福祉協会が行う視覚障害者福祉事業、岐阜県立岐阜盲学校及び同窓会、「視覚障害者の教育と福祉を進める会」の事業に協力し、視覚障害者福祉の向上に努めた。
- (2) 岐阜県社会福祉協議会及び各地域社会福祉協議会等の行う視覚障害者福祉事業に協力した。
- (3) 日本盲人キリスト教伝道協議会、日本聖公会社会福祉連盟に引き続き加盟してその活動に協力した。
- (4) 岐阜県図書館協会の図書館協議会に引き続き加盟し、県内の図書館の行う視覚障害者情報提供事業に協力した。
- (5) 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会の「情報サービス部会」、「自立支援施設部会」と、特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会に引き続き加盟し、技術研修及び情報の収集に努めるとともに、それぞれの団体の行うプロジェクトに委員を派遣し、事業に対して協力した。
- (6) その他、県内関係機関、団体に対して、視覚障害に関する助言をするな

ど連携を図った。

6. 「重複視覚障害者の就労支援を考える会」の設置
各団体で会を組織するまでに至らず、個々に連絡調整するにとどまった。
7. 「盲養護老人ホーム建設構想委員会」の設置
各団体で会を組織するまでに至らず、関係機関への要望のみとなった。唯一、岐阜県視覚障害者福祉協会の実施した「視覚障害者専用養護老人ホーム設置に関するアンケート調査」に協力することができた。
8. 防災意識の啓発
地域住民と災害弱者が災害時に共助できる社会構築を目指して防災運動会を実施した。10月14日（土）に岐阜県立岐阜盲学校体育館を会場に「第11回防災運動会」として実施した。（参加者150余名）

2017年度視覚障害者生活情報センターぎふ事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

事業概要

職員9名によって幅広い事業活動を展開した。尚、この事業は岐阜はもんの会の全面的な協力を得て行ったものである。

情報提供部門では、引き続き全国の視覚障害者を対象に、点字図書・録音図書の貸し出し、点字図書・録音図書の製作、点字資料類の製作、岐阜県図書館との相互協力によるリーディングサービス事業、点訳及び音訳ボランティアの養成、拡大教科書製作、触図の製作、点字印刷・製本、館内閲覧業務、対面音訳サービス、パソコン操作相談サービス等の事業を行った。そのほか点字図書・雑誌類の購入や各種資料の収集によって蔵書の充実に努めるとともに、全国視覚障害者情報提供施設協会のネットワークシステムである「サピエ」の事業への積極的な参加、国立国会図書館が行う「点字図書・録音図書全国総合目録」の事業への継続参加によって視覚障害者への情報提供の充実に努めた。また、視覚障害者用デジタル録音図書・雑誌の製作に引き続き取り組み、デジタル録音再生機器の取り扱いを指導して利用の促進を図った。さらに、弱視者への情報提供として個別のニーズに応じて拡大写本サービスを展開した。

生活支援部門では、身近な窓口として視覚障害者からのあらゆる相談に応じたほか、今まで小中校生に対して開催してきた「親子点字教室」「1日点字教室」を岐阜盲学校のオープンキャンパスに会場を変えて開催した。また、視覚障害者の外出の機会を広げる外出サポート事業、日常生活用具の収集・展示、クラブ活動の推進などを継続実施して、視覚障害者の理解と点字の普及を行うなど、多様化する視覚障害者のニーズにきめ細かく対応するとともに、視覚障害者福祉の啓発に努めた。

日常生活技術指導部門では、歩行指導、パソコン指導及び中途視覚障害者に対する点字学習指導を引き続いて行ったほか、必要に応じて日常生活における基本的な技術指導を行った。そのほかにも、岐阜うかいネット(岐阜ロービジョンケアネット)に加盟して、埋もれている中途視覚障害者、ロービジョンへの相談、支援等を積極的に行った。

また、視覚障害児・者・親の会「ひまわりの会」から就労支援事業を引き継いで、事業を実施するとともに、事業所開設に向けて準備を進めた。

各事業の内容

(以下、施設名を「生活情報センター」と略す)

I 情報提供部門

事業実績(2018.3.31現在)

(1) 蔵書数

点字図書 8,669タイトル(25,118巻)

録音図書 5,224タイトル(27,666巻)

CD図書 4,512タイトル

(うち、自館製作 点字図書2,989タイトル、録音図書4,049タイトル、CD図書1,214タイトル)

(2017年度増加分)

点字図書 124タイトル(428巻)

厚生省委託 17タイトル(50巻)

自館製作 85タイトル(304巻)

複製 5タイトル(12巻)

購入 1タイトル(5巻)

寄贈 16タイトル(57巻)

録音図書 186タイトル(227巻)

厚生省委託 57タイトル(57巻)

自館製作 109タイトル(150巻)

複製 0タイトル

購入 0タイトル

寄贈 7タイトル(7巻)

その他 13タイトル(13巻)

テキストデイジー 20タイトル

(2017年度廃棄分)

点字図書 0タイトル

録音図書 0タイトル

(2) 貸し出し数

点 字 2, 161タイトル (4, 528巻)
うち、図書 791タイトル (2, 836巻)
雑誌 1, 370タイトル (1, 692巻)
(点字雑誌取扱数 24種 27巻)
録 音 11, 150タイトル (29, 830巻)
うち、図書 9, 938タイトル (14, 349巻)
(テープ図書取扱数 967タイトル 5, 367巻)
(デイジー図書取扱数 8, 971タイトル 8, 982巻)
雑誌 1, 212タイトル (15, 481巻)
(テープ雑誌取扱数 11種 19巻)
(デイジー雑誌取り扱い数 63種 70巻)

(3) サービス実績 (一部再掲)

製 作	点 訳	
	蔵 書	85タイトル (304巻)
	プライベートサービス	132件 (4, 647ページ) (うち、立体コピー 3ページ)
	音 訳	

蔵 書 109タイトル (デイジー94タイトル・テープ15タイトル)
プライベートサービス 14タイトル
(デイジー13タイトル・テープ1タイトル)

テキストデイジー図書
蔵 書 20タイトル

製 作 以 外	点字データ提供	6件
	点字打出し	23件 (6, 580ページ)
	テープコピー	2件
	対面音訳サービス	延べ 14件28時間
	その他、代筆、墨字訳、触図、墨字入力、葉書印刷など	

(4) 来館者数

個人 6, 400名 (利用者2, 209名、ボランティア4, 191名)
団体 11団体 484名

1. 点字部門の製作と貸し出し

- (1) 点字図書の最新の出版情報及び「サピエ図書館」に登録される点字図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。
- (2) 利用者の希望に応じて、県図書館が購入した新刊書を借り受けるほか、新たに原本を購入し、点訳ボランティアの協力によって点訳図書として製作して、希望者に提供した。また、点訳ボランティアの協力によって、利用者の希望に応じた自館製作図書の増加に努めた。製作に当たっては、点訳図書を読者に速やかに提供できるよう、点訳→校正→判定→修正→点検→製本→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。なお、製作した点訳図書は「サピエ図書館」に登録して全国の共有財産とするとともに、常に着手情報を把握しながら重複政策を回避した。さらに、国立国会図書館総合目録にも登録され、全国の点字図書館、公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。

相互貸借の状況は次のとおり。

	他館所蔵図書借受数	自館所蔵図書貸出数
点字図書	392タイトル(1,645巻)	190タイトル(654巻)

- (3) 利用者の学習要求、情報要求に対して、「サピエ図書館」、その他インターネットを活用して幅広い分野での情報提供に努めた。
- (4) 点訳講習会を開催して新たに点訳者を養成するとともに、講習会修了者に対しては、最新の点訳ソフト、OCR等を導入、周知し、利用者に速やかに情報提供できるよう努めた。
- (5) 館報「長良川だより」（点字版410部、墨字版252部、メール版70通）を毎月継続発行し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供に努めた。「長良川だより」には、生活情報センターからのお知らせ、点字・録音新着図書案内、「サピエ図書館」に新しく登録された主な資料の紹介などを掲載した。
- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋（毎月約80タイトル分）し、点字版を継続発行し、希望者27名に配布した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の点訳原本を決定した。
- (7) 点字交流誌「心」を年4回発行して希望者156名に配布し、利用者間

の意見・情報交換の場を提供した。

- (8) Lサイズ点字プリンターを設置して、常時中途視覚障害者のLサイズ点字図書等の求めに応じられるよう努めた。
- (9) プライベートサービスにより、個人の必要とする資料等の即時提供に努めた。

2. 録音部門の製作と貸し出し

- (1) 録音図書の最新の出版情報及び「サピエ図書館」に登録される録音図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。また、岐阜県図書館との相互協力によってリーディングサービス事業を行った。この事業では、利用者の希望に応じて、県図書館が購入した新刊書を借り受けるほか、新たに原本を購入し、音訳ボランティアの協力によって録音図書として製作して、希望者に提供した。
- (2) 音訳ボランティアの協力によって利用者の希望に応じた自館製作図書の増加に努めた。製作に当たって図書を読者に速やかに提供できるよう、音訳→校正→判定→訂正→編集→プリント→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。なお、製作した録音図書は「サピエ図書館」に登録して全国の共有財産とした。また、国立国会図書館総合目録にも登録され、全国の点字図書館、公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。

相互貸借の状況は次のとおり。

	他館製作図書借受数	自館製作図書貸出数
テープ図書	669タイトル(3,820巻)	249タイトル(1,285巻)
デージー図	6,632タイトル(6,643巻)	1,207タイトル(1,207巻)

- (3) 音訳講習会を開催して新たに音訳者を養成するとともに、講習会修了者に対しては、デージー編集技術を習得してもらうなど、利用者に速やかに情報提供できるよう努めた。
- (4) 視覚障害者用デジタル録音図書の製作に取り組み、デージー94タイトル、テキストデージー20タイトルのデージー図書を製作した。また、テキストデージー・マルチメディアデージー編集講座を開催して、編集スタッフの増強に努めたほか、デージー学習会(月1回)を開催してデジタル録音図書製作の知識・技術の向上を図った。その他にも、新たに

映画のサウンドに登場人物の表情や動作、画面の様子を説明する音声解説を付けた「シネマ・デイジー」の製作に着手した。

- (5) 館報「長良川だより」（デイジー版 109部、テープ版 37部）で、「新着録音図書」を毎月紹介し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供を行った。尚、内容については点字版・墨字版とほぼ同様である。
- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋（毎月約80タイトル分）し、墨字図書の近刊情報（デイジー版 12部、テープ版 3部）を提供した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の音訳原本を決定した。
- (7) 月刊録音雑誌サウンドパーク「心」を毎月製作して、デイジー版172名、テープ版（C-90 1巻）142名の希望者（施設を含む）に貸し出した。
- (8) 「婦人公論 全文音声版」を毎月2回製作して、デイジー版131名、テープ版（C-90 2巻）54名の希望者（施設を含む）へ貸し出した。また、「サピエ図書館」にもアップし、ダウンロード数4,475回、実人数2,643名の利用があった。「岐阜新聞 分水嶺」を毎月製作して、デイジー版64名の希望者に貸し出した。また、「サピエ図書館」にもアップし、ダウンロード数762回、実人数504名の利用があった。また、前年度に引き続いて地域情報を提供するための録音雑誌「生活情報誌 月刊ぷらざ」を毎月製作して、デイジー版43名、テープ版（C-90 1巻）16名の希望者に貸し出した。その他、月刊誌「JAFMATE」を毎月製作して、デイジー版65名の希望者に貸し出した。
- (9) プライベートサービスにより、個人の必要とする資料（テキスト、音声デイジー、テキストデイジー、マルチメディアデイジー）等の即時提供に努めた。
- (10) 利用者の希望に応じて、延べ14件（28時間）の対面音訳サービスを行った。
- (11) その他に、利用者の求めに応じて、日本点字図書館、日本盲人会連合、神奈川県ライトセンター等が製作するデイジー・テープ雑誌をプリントして貸し出した。

3. 拡大写本サービスの充実

通常学級に在籍する弱視児童・生徒に対して、利用者個人からの依頼を受けて20教科122分冊の拡大教科書の製作をした。

また、iPadを活用したPDF版拡大図書(教科書)「UDブラウザ」用のデータの作成・提供を岐阜盲学校と連携して49冊分行った。

4. 触図の製作

点訳図書原本にある様々な図・表等の作成に全面的に取り組んだ。

5. ボランティアの養成

- (1) 岐阜はもんの会主催で2017年度は「音訳ボランティア研修会」を行い、講師に安田知博氏を迎えて、会員・協力団体等を含めて78名が受講した。
- (2) 岐阜県の委託による点訳講習会（岐阜教室、可児教室）及び音訳講習会（岐阜教室、美濃加茂教室）を2017年6月から2018年3月までの間に、それぞれ29回にわたって開催し、点訳8名、音訳15名、合計23名の修了者を得ることができた。またデジタル録音図書製作体制を強化するため、音訳ボランティア等を対象に音声デイジー編集講座（14名修了）、音訳校正講座（23名修了）、テキストデイジー製作講習会（8名修了）、マルチメディアデイジー製作講座（5名修了）、シネマ・デイジー製作講座（10名修了）を開催した。
- (3) 点訳・音訳ボランティアの資質の向上を図るため、前年度講習会修了者を対象として「点訳勉強会」（岐阜の1教室）及び「音訳勉強会」（岐阜池田の1教室）をそれぞれ月1回開催してアフターケアに努めるとともに、毎月定期的に「点訳の集い」（岐阜・大垣・可児の3教室）、「点訳学習会」(岐阜1・岐阜2・多治見の3教室)及び「音訳学習会」（岐阜・可児の2教室）、音訳校正学習会（岐阜の1教室）、デイジー学習会(岐阜の1教室)を開催して、点訳・音訳技術の向上に努めた。
- (4) 点訳図書製作に関わる職員とボランティアで構成する「点訳図書製作プロジェクト」を毎月1回開催して、図書製作に関わる知識・技術を修得し、資質の向上に努めた。
- (5) 小中高生、福祉団体等から増え続ける施設見学に応えられるよう、施設案内講習会を開催して案内ボランティアの増員に努めた。

6. ネットワーク事業への参加

パソコンで製作した点字データ、音声データの登録を行うなど、視覚障害者情報ネットワークシステムとして機能している「サピエ図書館」の事業に積極的に参加し、利用者サービスの向上を図った。

7. 点字印刷・出版、その他

- (1) 岐阜県広報紙「岐阜県からのおしらせ」点字版（月刊・26ページ・302部）及び岐阜市広報紙「広報ぎふ」点字版（月2回・32ページ・100部）の製作・配布を委託事業として行った。なお、中途視覚障害者をはじめ高齢によって点字の触読が困難になった読者には、Lサイズ点字版「岐阜県からのおしらせ」（39部）、「広報ぎふ」（17部）を作製し配布した。その他、岐阜県の委託により「視覚障害者福祉の手引」点字版（150ページ・349部）の製作を行った。
- (2) 岐阜県広報紙「岐阜県からのおしらせ」の音声版（月刊・デージー版36部、テープ版C-46・1巻153部）、テキストメール版（13通）及び岐阜市広報紙の音声版「あいメール」（月2回・デージー版9部、テープ版C-60・1巻37部）の制作・配布を委託事業として行った。その他、岐阜県の委託により「視覚障害者福祉の手引」音声版（デージー版37部、テープ版C-90・2巻・139部）の製作を行った。
- (3) 日本聖公会の委託を受けて、祈祷書及び聖歌集等の点字版を希望に応じて製作した。
- (4) 岐阜県身体障害者福祉協会会報「希望」（年3回）、その他小冊子、視覚障害者団体の会議資料、及び会員向け通知文などの点字版製作をそれぞれの依頼によって行った。また岐阜県、及び各市町村選挙管理委員会の依頼による各種選挙の「候補者名簿」点字版の製作、点字の名刺の製作に協力した。
- (5) 県内公的機関の閲覧用冊子としての「岐阜県議会だより」点字版（標準サイズ43部、Lサイズ43部）、音声版（デージー版40部、テープ版40巻）を製作した。

8. 関係機関・団体との連携

- (1) 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）及び社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）の1施設として各種事業に参加した。そのほか、全視情協、日盲社協・情報サービス部会の

各種プロジェクト委員会に協力した。

- (2) 中部ブロック点字図書館連絡協議会加盟の各点字図書館相互の連携を密にし、事業の効果を上げるために積極的に協力した。
- (3) 日本図書館協会に引き続き加盟し、図書館界の情報収集に努めた。
- (4) 岐阜県図書館協会に引き続き加盟し、県内の図書館との連携に努めるほか、岐阜県図書館の音訳講座・研修会等、要請に基づいて各地域でのボランティア講座に講師を派遣した。
- (5) 隔月に名古屋盲人情報文化センター等を会場に開催する「東海点字研究会」に参加するとともに、その運営に積極的に協力した。
- (6) 盲学校、岐阜うかいネット（岐阜ロービジョンケアネット）、JRPS等と情報交換を行い連携を図った。
- (7) 岐阜市主催の「オンリーワンわたしたちの芸術祭」で、司会を務めた。

Ⅱ 生活支援部門

1. 生活相談・支援

- (1) 中途視覚障害者をはじめ、視覚障害者からのさまざまな相談に応じ、関係機関と連携を図りながらその解決に取り組んだ。
- (2) 岐阜大学、岐阜盲学校、岐阜県眼科医会、岐阜県眼鏡商業協同組合、岐阜県視能訓練士会等で構成する岐阜ロービジョンケアネット（うかいネット）に加盟し、各団体と連携して中途視覚障害者の相談・支援を行った。

なお、事業の実施状況は次のとおり。

- ・実施件数 24件（延べ54名）

2. 「視覚障害者外出サポート事業」の充実

視覚障害者団体の行事のサポートや生活情報センターに来館した際の買い物等、同行援護事業に該当しない支援に対して「視覚障害者外出サポート事業」を行った。また、インターネットを利用した外出サポートの全国ネットワークである「全国視覚障害者外出支援連絡会」（JBOS）に引き続き加盟して、他県の外出サポート事業実施団体との連携を図った。

なお、事業の実施状況は次のとおり。

- ・実施件数 24件（延べ99名）

3. 多様な学習機会の提供（ワークショップの開催）

- (1) 3B体操：運動不足になりがちな視覚障害者にとって、3B体操は年齢性別に関係なく誰にでも無理なく、心身ともに健康な日常生活を送れるよう、気軽に楽しめる有益な体操である。月に1ないしは2回教室を開き、視覚障害者の健康増進を図った。

- ・実施回数 20回（延べ約160名）

- (2) 社交ダンス：一般の社交ダンス教室には視覚障害者は入りづらい、しかしダンスを通して交流を深めたい、日ごろの運動不足を解消したい等の目的で、生活情報センター等を会場に社交ダンス教室を実施した。

- ・実施回数 48回（延べ約96名）

- (3) 太極拳：一般の教室では型や一連の動作の流れを教えてもらいづらいとの多くの声が寄せられ、視覚障害者に理解のある講師を招いて教室を実施した。

- ・実施回数 23回（延べ約161名）

- (4) 2017さよなら餅つき会：2017年度はセンター交流会と同日開催し

た。御輿愛好会「驀（まっしぐら）」の協力の下、利用者、地域住民も多数参加した。

- ・実施日 12月23日（祝・土）
 - ・参加人数 約150名(利用者、地域住民、関係者含む)
- (5) アソシアシネラマボイス：一般の映画上映会ではまだ十分に普及していない副音声解説付き上映会を定期的に毎月1日ないしは次の日に実施した。
- ・参加人数 173名
- (6) 読書会「本の玉手箱」：読書という共通の趣味を持つ利用者、ボランティア等を対象に、本のことを自由に語れる場として隔月に1回実施した。
- ・参加人数 延べ18名

4. 日常生活用具の収集・展示

視覚障害者が日常生活を営む上で便利な用具類を引き続き収集・展示して視覚障害者が気軽に試用できるよう配慮した。また視覚障害者の希望に応じて購入斡旋を行った。

5. 施設機能強化事業の実施

- (1) 避難訓練：水害、火災等を想定して、職員の役割分担を確認したうえで、来館者に対して抜き打ちで避難訓練を実施した。
- ・実施日 2017年7月31日(月)、2018年2月15日(木)
- (2) 第11回防災運動会：災害時に地域住民と障害者が自助・共助しあえる体制づくりを構築できるよう、岐阜県、岐阜盲学校、岐阜県視覚障害者福祉協会との共催で岐阜盲学校を会場に実施した。
- ・実施日 10月14日（土）
 - ・参加人数 約150名
- (3) 普通救命講習Ⅰ：不測の事態に備え、地域で救命活動ができるよう、視覚障害者、ボランティアを対象に岐阜中消防署の協力を得て実施した。
- ・実施日 2018年2月11日(祝・日)
 - ・参加人数 10名(内視覚障害者5名)
- (4) クラブ活動の推進：生活情報センターを拠点として、視覚障害者と晴眼者が共通の趣味や目的で集まるクラブ活動の場を提供し、両者の交流を促進した。センターとしては、担当者を配置した上で、①広報（視覚障害者・晴眼者双方に対して）、②会場・機材の提供、③資料（点字・墨字）の製作の3点について支援を行った。

今年度の状況は次のとおり（編みものクラブ、卓球クラブは月2回、その他はいずれも月1回）。

- ア. 料理クラブ…1997年12月発足、13名（視覚障害者8名、晴眼者5名）
- イ. 卓球クラブ…1999年2月発足、15名（視覚障害者11名、晴眼者4名）
- ウ. 編みものクラブ…2006年4月発足、15名（視覚障害者9名、晴眼者6名）
- エ. コーラスクラブ…2007年4月発足、13名（視覚障害者10名、晴眼者3名）

6. 災害時要援護者支援を目的とする支援システム体制の構築

災害時の安否確認の目的と要援護者と支援者を把握する「避難行動要支援者システム」のデータを構築しながら運用を開始した。

7. センター交流会の実施

利用者とボランティア・職員との交流を目的に「センター交流会」を生活情報センターと飛騨市で実施した。なお、生活情報センターでは午前「2017さよなら餅つき会」を、飛騨市では用具展示会をそれぞれ開催して、午後からの懇談会の参加を促した。

（生活情報センター）

- ・実施日 12月23日（祝・土）
- ・参加人数 利用者35名（内付添1名）
職員・ボランティア39名

（飛騨市・飛騨市古川公民館）

- ・実施日 7月30日（日）
- ・参加人数 参加者50名（内付添・ガイドヘルパー含む）
職員・用具出店業者9名

8. 視覚障害者福祉協会等の行事や活動への協力

- (1) 岐阜県視覚障害者福祉協会が岐阜県の委託を受けて実施する視覚障害女性家庭生活訓練事業（5月～12月）に対し、「岐阜はもんの会」とともに全面的に協力した。
- (2) 岐阜県視覚障害者福祉協会との共催で、「点字フォーラム2017」を行った。今年度も昨年に引き続き対象を東海地区に広げて実施した。また、競技のほか、午後のディスカッションでは、点字表記法改訂に向けて、視覚障害者にもっと受け入れやすい点字になるよう要望するこ

とを確認した。

- ・実施日 11月26日(日)
- ・内容 午前…早読み、記憶書き、聞き書き、写し書き等
午後…みんなでディスカッション「点字表記あれこれ」
- ・参加人数 17名

9. 視覚障害者福祉の啓発活動

毎年夏休みに点字、視覚障害者、盲導犬等に関心を持つ小中高生を対象に「親子点字教室」「1日点字教室」を開催してきたが、より多くの人に関心を持ってもらえるよう、2017年度は岐阜盲学校のオープンキャンパスにおいて「岐阜アソシア点字体験コーナー」を実施した。

- ・実施日 8月8日(火)
- ・参加人数 約70名

Ⅲ 日常生活技術指導部

1. 歩行指導の実施

歩行指導員により個別に歩行指導を行ったほか、必要に応じて歩行指導以外の生活技術指導を行った。また県内各地の社会福祉協議会等からの要請により、地域のガイドヘルパー及び一般市民に対する誘導法の普及に協力し、視覚障害者が安全かつ容易に外出できる環境作りに努めた。

歩行指導の実施状況は次のとおり。

- ・実施人数 20名（延べ96回）ほかガイド講習会等への協力多数

2. パソコン指導の実施

視覚障害者がパソコンを介して情報収集を図り、また情報伝達を円滑に行うために、個々のニーズに応じて個別のパソコン、タブレット等の指導を引き続き実施した。

- ・実施人数 31名（延べ126回）
タブレット講習の実施状況は次のとおり。
- ・実施人数 13名（延べ101回）

3. 中途視覚障害者に対する点字学習指導

点字学習を希望する中途視覚障害者に対して、ボランティアの協力を得て個別に学習指導を行った。

点字学習指導の実施状況は次のとおり。

- ・実施人数 7名（延べ118回）修了人数 2名

4. 視覚障害者職業訓練指導

就職困難な視覚障害者や一般就労する視覚障害者に必要な技術指導を行った。また、岐阜盲学校からの依頼で、重複障害の生徒に作業実習を行った。

- ・実施人数 2名（延べ10回）
作業実習の実施状況は次のとおり。
- ・実施人数 6名（延べ9回）

5. 代読・代筆情報支援事業

視覚障害者が社会参加する上で、書類の内容を読み取ることと記載することに大きな障壁がある。来館された利用者に限られてしまうが、

これらの書類の代読・代筆を行った。

- ・実施人数 18名（延べ29回）

6. 相談

生活相談全般にわたっての相談を受け、適切な処理を行った。

- ・生活相談人数 196名（延べ334件）
- ・日常生活相談(用具) 128名（延べ168件）

2017年度「障害者総合支援法」による同行援護、移動支援事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

「障害者総合支援法」の同行援護、移動支援事業を行い、視覚障害者・児の社会参加を促進した。

- (1) 同行援護従業者の研修を実施し、初任者等の養成を行った。
 - (2) スキルアップ研修に参加し、資質の向上を図った。
 - (3) 職員と共に事務を簡素化し、事業の充実を図った。
 - (4) ボランティアの協力によって行う「外出サポート事業」とのすみ分けを明確にした。
- ア. 同行援護、移動支援の利用を優先し、制度が利用できない場合に「外出サポート」で対応した。
- イ. 同行援護、移動支援利用のコーディネートは、職員が行った。

契約市町村数 32 市町村

利用契約者数 164 人

利用延べ回数 6758 回（延べ時間 29564.5時間）

